日本薬科大学
NIHON PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

薬草園の花だより

第 31 号

2021 年（令和３年）10 月８日発行

■第 31 号に寄せて

夏を謳歌するように騒がしかったアブラゼミやミンミンゼミの声がいつしかツクツクボウシに変わり、やがて、その声も弱々しくなってついには木々の間のセミの声が無くなってしまい、草々の中からの虫の声に変わってきました。いよいよ「読書の秋」・「食欲の秋」到来。皆様いかがお過ごしでしょうか。

キクイモの花と青空

新型コロナウイルス蔓延による緊急事態宣言が９月末にて解除となりました。新規感染者数も激減と言ってよいほど減ってきました。ワクチン接種率が向上し、少し安心できる状況に近づいたのではないかとも思いますが、これからまた新規感染者の増加（いわゆる第６波）に向かわないとはかぎりません。新型コロナウイルス感染（COVID-19）には今後とも十分に気をつけましょう。

８月末には猛暑日が続いたり、青森市においては観測史上初めてという 10 月になってからの真夏日があったりと、異常気象がずっと続いておりますが、植物たちはこのような異常気象をものともせず元気に育って花を咲かせています。もう咲き終わってしまいましたが、ヒガンバナの仲間も秋のお彼岸を中心に咲き誇りました。その根にイヌリンを含むキクイモと青空の写真を示しますが、前回の「ヒマワリと青空」の青空と比べると同じ青空でも、はっきりと夏の空から秋の空に変化しているのがわかります。

花はひとしきり咲けばいくら元気にその存在を誇っても、やがて散ってしまうもの。せめて咲いているときには大いに見てあげ、讃えてあげたいものです。キャンパス内では、対面の講義や部活もだんだんと始まりました。そして、青空が広がる良い季節となりました。これから、秋の花々が咲き始め、花の色もぐんと冴えてくる時期です。花たちは自分の方から「見てほしい」と動くことはできません。是非、機会を見つけて薬用植物園にも足を運んでください。お待ちしております。（日本薬科大学薬用植物園長／船山信次）

■今咲いています・見頃です

いよいよ秋本番となってきました。秋に咲く植物たちが薬用植物園にて元気に咲き始めています。植物は見れば見る程、その魅力がわかってきます。薬学は薬用植物を知ることから発展しました。薬用植物は薬学の母と言ってもよいものです。個々の薬用植物に親しみ、薬用植物を十分に理解することは薬学という学問全般の理解にもつながると思います。

《ワタとトロロアオイとフウリンブッソウゲ》

ワタ（*Gosssypium indicum*）とトロロアオイ（*Hibiscus manihot*）はいずれもアオイ科の１年草です。今、薬用植物園の東側圃場で咲いています。ワタは綿の原料植物であり、綿花とはこの植物の果実部分の種子の白毛を示します。綿花を脱脂・漂白して成形したのが脱脂綿で、平成 17 年（2005 年）４月１日からは医療機器に区分変更されましたが、第 14 改正日本薬局方第２追補により削除されるまでは医薬品でした。

ワタ

一方、大きな魅力的な色の花を咲かせているトロロアオイの根は製紙用の糊として応用されています。トロロアオイと同属の木本植物であるブッソウゲ（*H. rosa-sinensis*）はハイビスカスとしてよく知られています。今、ハイビスカスの仲間のフウリンブッソウゲ（*H. shizopetalus*）も温室前の鉢で咲いています。花の形は違いますが葉はよく似ています。

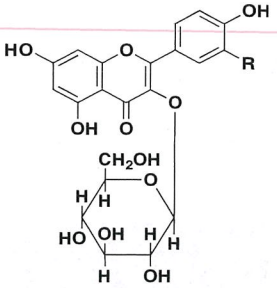
トロロアオイ

フウリンブッソウゲ

《カキノキ》

薬用植物園の温室前東圃場の北東の隅でカキノキ科のカキノキ（*Diospyros kaki*）が果実をつけています。たわわに実った柿と茅葺の家がそろうと、わが国郊外の原風景（ふるさと）の感があり、その学名中の *kaki* は日本語の柿由来であることは間違いありません。まさに、柿は日本を代表する果物と思っていました。実際にわが国にもカキノキの仲間の自生があり、これらもかかわって優秀な食用品種もできたのでしょうが、韓国のソウル郊外を旅行した際にカキノキがたわわに実をつけている風景を見ました。また、「柿ジュース」が当地の学会で配られ、ホテルの朝食会場にても普通にサーブされていて、柿が韓国でとてもポピュラーであることを知り、柿が日本独特の果物という考えが少々変わりました。なお、カキの語源は「赤木」であり、その心材が濃い赤っぽい茶色となっていることによります。この心材はとても硬くて軽く反発力があることから、かつてはゴルフのドライバーのヘッドにも使われたとのことです。

カキノキ



アストラガリン　R = H
イソケルシトリン　R = OH

カキノキの葉はお茶として高血圧の方に民間療法として使われることがありますが、この葉の抽出物は実験的に血圧を下げることが古くから知られていました。その後、作用本体として、フラボノイド配糖体のアストラガリンとイソケルシトリンが単離同定され、健康関係の一般書籍にも文献引用なしで紹介されています。それだけ一般的な知見となってしまった証拠なのでしょうが、実は、この知見は、園長の薬学研究科修士課程学生時代の研究成果の一部です。

■他に次のような植物が開花中・見頃です

本格的な秋を迎え、シオンの花の色が冴えてきました。シュウカイドウも花盛りを迎えています。ゲンノショウコも小さい花をつけています。ゲンノショウコの花色はおおまかに日本の東部は白色、西部はピンク色ですが、皆さんの御実家のあたりはどうでしょうか。

温室の東側の圃場ではチョウセンアサガオとケチョウセンアサガオが果実をつけました。先に書いたことがありますが、両者の花はよく似ています。しかし、写真でおわかりのように両者の果実の形の違いは明らかです。すなわち、チョウセンアサガオの果実の表面はデコデコであるのに対し、ケチョウセンアサガオの果実は棘で覆われています。

シュウカイドウ

シオン

ゲンノショウコ

チョウセンアサガオの果実

ケチョウセンアサガオの果実

■薬用植物園からのお知らせ

《ハロウィン間近です》

まもなくハロウィンですね。薬用植物園でもこれからささやかながらハロウィンの飾りつけをしようと思っています。来年はお化けカボチャの栽培にも挑戦してみましょうか。皆さんに「カボチャは薬用植物でしょうか」っていう質問をされそうですが、その種子は南瓜仁（なんがにん）といって歴とした生薬です。条虫駆除薬として応用されたことがあります。それにしても、もしある植物が、現在は薬用として使われなくとも、それをどうにかして薬用に供すことができないかを考究していくのも薬学のひとつの目的だと思います。種々の植物に親しんでいただきたい。そして、薬用植物学、ひいては薬学に大いに興味を持っていただきたい。そんな思いで薬用植物園は常に開放され、皆さんのお越しをお待ちしています。どうぞ機会を見つけて薬用植物園に足を運んでください。

発行：日本薬科大学薬用植物園